



3152
4

九考
九考

本朝水滸傳卷之四



第七條

す成が娘役務娘成の経をよをみ押務
を控く七人の物部洲國におり自軍國なる

いとつれぬぬにゆく腫まひこ。なぐれがたは山目ぞあり。軍兵ありといく
療むくもあむは痛つ押務八志ど。痛く只あつ。心おそる。又
も痛難し。これハおむく。見のれが國より。あ。方の物部を白往の
君のひこ日。女ささる。と父。栗田好房。夫人が宿津家の妻。又、雲が
装物。うがいう。ち。りける。押務首。これハむむ。おむく。ゆに。子あ。く。を
く。ま。り。が。二。年。の。母。も。ま。と。く。ゆ。る。る。の。後。妻。津。の。人。さ。る。ハ
代。の。軍。も。む。が。く。り。け。ん。男。の。家。ハ。我。強。勁。よ。り。く。い。う。ま。か。さ。り。



叶善



つん。されとお店ほうせむいそ家の子あうーかば他の子からいそ
 とゆぐうたるも。衆をこく。軒かぶ。そのおんをがう。おんをよの
 後三尾崎はこりりくゆと。よ。おんをいそく。おんをいそく。おんを
 ちよのいつかるも。おんをいそく。おんをいそく。おんをいそく。おんを
 ういそく。おんをいそく。おんをいそく。おんをいそく。おんをいそく。
 遠らー。おんをいそく。おんをいそく。おんをいそく。おんをいそく。
 の。おんをいそく。おんをいそく。おんをいそく。おんをいそく。
 おんをいそく。おんをいそく。おんをいそく。おんをいそく。
 る。おんをいそく。おんをいそく。おんをいそく。おんをいそく。
 せう。おんをいそく。おんをいそく。おんをいそく。おんをいそく。

とある。おんをいそく。おんをいそく。おんをいそく。おんをいそく。
 よひ。おんをいそく。おんをいそく。おんをいそく。おんをいそく。
 黄金。おんをいそく。おんをいそく。おんをいそく。おんをいそく。
 ども。おんをいそく。おんをいそく。おんをいそく。おんをいそく。
 を。おんをいそく。おんをいそく。おんをいそく。おんをいそく。
 何と。おんをいそく。おんをいそく。おんをいそく。おんをいそく。
 とい。おんをいそく。おんをいそく。おんをいそく。おんをいそく。
 の。おんをいそく。おんをいそく。おんをいそく。おんをいそく。
 ゆ。おんをいそく。おんをいそく。おんをいそく。おんをいそく。
 方に。おんをいそく。おんをいそく。おんをいそく。おんをいそく。

此の如くおれもやどよ。おわろよ。走れ。これ決断むとまらり。の
 むかとのり。思慮く。加。おれ。ゆ。か。お。き。み。乃。ま。の。び。ま。え。ん。ま。の。の
 嵐の吹かふ。不。う。の。ち。方。も。度。れ。お。ん。お。れ。も。付。ら。び。と。強。れ。ば。押。務。さ。ら。よ
 て。ぞ。い。か。い。の。解。ぬ。と。ら。よ。さ。く。刀。自。も。お。く。老。彼。と。お。わ。ろ。の。形。状。を
 と。ひ。お。く。後。あ。一。を。ど。い。娘。ハ。今。お。う。色。の。け。り。も。と。と。り。つ。る。湯
 ち。浴。せ。替。る。と。梳。か。一。装。束。い。と。あ。く。し。て。刀。自。が。押。務。よ。し。あ。を。せ。る
 よ。これ。筆。の。や。ど。二。十。有。と。り。の。よ。は。と。さ。お。び。く。眉。の。さ。よ。あり。と。あ。く。面
 ち。の。い。ん。か。お。く。その。ひ。く。髪。乃。さ。ぐ。り。た。る。ま。ぐ。と。大。文。の。う。ら。よ
 と。お。め。け。る。丈。人。妃。の。中。に。も。か。家。容。自。ハ。お。え。さ。び。と。た。が。ゆ。娘。ハ。か。家
 の。ど。ころ。よ。せ。い。ち。ち。て。お。の。て。ぶ。う。い。え。あ。ふ。く。も。あ。く。ね。ど。父。母。能

ち。く。生。存。ぬ。ま。よ。う。が。つ。か。の。び。ち。を。の。く。う。ら。い。ら。お。ど。い。か。く
 又。く。訓。る。か。い。よ。は。た。ち。あ。ら。う。く。い。ゆ。る。押。務。乃。ハ。ち。か。の。い。ま。の。よ。と。い。は。
 妻。乃。刀。自。う。ち。あ。あ。ひ。く。の。名。を。伊。次。と。申。に。お。ど。く。え。り。あ。わ。ば
 ね。の。も。ち。ひ。わ。く。非。実。う。ま。せ。あ。お。ど。い。と。い。ひ。さ。ら。よ。つ。け。く。天。使。使。務。と
 あ。び。く。ゆ。と。い。へ。ハ。お。も。微。笑。ま。く。今。お。ん。か。り。と。あ。ま。さ。こ。え。一。ご。と
 く。の。ら。う。バ。お。か。と。お。ひ。き。さ。く。ゆ。か。家。甚。山。申。は。折。紙。押。の。ひ。人
 も。ま。さ。び。の。か。く。て。き。く。さ。ら。ね。の。ゆ。つ。け。く。ハ。お。あ。だ。う。し。て。お。も。も。お
 一。由。縁。あ。る。か。こ。ま。も。お。ん。ん。か。家。の。後。身。苦。と。れ。お。り。と。い。る。ち。ハ
 命。の。か。ぎ。り。せ。ま。の。死。神。の。も。お。い。ま。え。ん。と。い。母。の。も。ち。き。お。せ。お。え。る。さ。を。あ。こ
 ち。き。み。お。り。あ。く。か。く。る。が。ら。年。月。と。お。を。ひ。へ。死。よ。お。川。の。神。も。あ。り。と。く

仕まつると此より。べききやうらびのちかき。お供りする。押勝破おしきりたまをそ破れ
おそせくちる。

岩根踏いわねふみをききおれ。つねたよふ。岩根まゝ。とてん。い
とどめたく書つけら。押勝うちより。いびく。若もかく。おきこえ。ふ
よき。務つとめのよそよ。かいは。だる。以。憑たよりもおと。ね。これ。け。乃。別。あ。を。せ。た。あ。ふ
おん。と。き。て。四月の。こ。め。お。も。ひ。は。か。ら。た。う。なり。四月。は。ひ。さ。さ。ど。なり。け。ら。え。
今こそ。ハ。秋。ほ。ろ。の。秋。務。指さしお。る。が。は。側。つ。ふ。ま。つ。せ。と。ち。づ。の。き。人。も。ぞ。が
うち。あ。げ。え。け。ら。秋。務。細。よう。け。ら。う。を。て。い。の。兒。の。お。父。ま。つ。ふ。あ。つ。た
は。し。け。し。た。ち。る。は。と。は。け。ら。う。て。い。う。ち。づ。ら。も。は。は。け。あ。の。乃。ろ。も。く。か。ひ
を。い。ん。ち。ち。ま。ぐ。か。ひ。した。お。ら。う。と。と。神。お。なり。め。ら。い。と。お。か。ら。う。と

のまひくちゆもえす。にこそ。お。ま。あ。く。ち。る。は。き。人。由。は。あ。ぐ。と。あ。は。し。と。て
は。祝。め。さ。ね。く。

岩が根踏いわねまくだ。あ。つ。な。ぬ。な。の。思。置。あ。を。を。か。ら。あ。は。せ。ん

いと。き。く。か。ら。つ。け。て。あ。ら。う。押。勝。二。人。乃。若。人。よ。い。と。お。せ。ら。れ。が。今。ハ。お。ひ。あ。れ
る。の。を。と。ら。び。若。も。お。の。こ。て。お。く。い。ひ。お。ぬ。れ。と。ま。く。人。と。て。ハ。お。の。ま。ら。い
か。う。の。く。若。も。身。中。も。い。ひ。か。う。と。い。は。る。う。さ。る。あ。も。お。の。れ。ま。が。れ。い。ふ。と。
い。く。く。か。て。若。も。は。と。お。さ。ら。せ。く。つ。ら。あ。あ。せ。ら。の。さ。を。お。く。食。事。と。なり。と。
り。若。も。た。た。ふ。さ。う。り。た。れ。が。今。お。あり。お。父。が。解。き。こ。え。く。け。ら。あ。ぞ。お。け。れ
ひ。の。り。く。集。り。若。も。若。も。伊。百人。を。う。り。庭。も。も。あ。の。間。み。と。む。き。お。は。ら
押。勝。い。と。の。り。く。お。ひ。く。ま。の。か。と。破。人。お。父。押。勝。お。る。う。び。て。た。右

又床几とせうきにたすくべたるに。を父おち來ルを押務おしむとゆぐりて曰。汝ハ身みあるれど
 既アキラに位たい一修いしゆたまり官くわんハ大伴おほなつね又任まかせられり。其そののれハ大納おほのつねも亦またもまゝと
 阿あのさ言こと位たい試しなり如ごとくたれば兄あにといどもをよ希まれらんや。今いまより汝みづかを
 大納おほのつねハ秋あきハ副ふく將軍しやうぐんたりといひ。礼れいをわづく。秋あきは亦またもかくせ。並ならにそ
 りてく押務おしむと稱せうりて曰。既いまはかくのごとくいふをいひおせ。めつれたる
 昔むかしのうち九人くわんをハなよとめ。七人しち乃すなは兵へい決けつえり。みくは彼かを決けつあてて國くににめ
 ぐ。たまたまハ四よの自みづからハ名な決けつあてをぐ。決けつあてりて。後のち決けつうたはるを
 ち。うん人をバ。彼かもあれか。いひきこえよ。いひせたまる。とさだ
 て。彼かと稱せうむ。よ押務おしむがいとく。稱せうま。よそられ。眼まなこ決けつあて。つるま。つた
 男おとこハ切きのちめある者ものといへん。彼かつて。めか。と。名なハ何なにとかといひ。を父おちき。と。く

彼かハ公こう赤せき國こくの妻つまなり。よく妻つまは彼か決けつか。く。名なを。押おした。れ。と。あ。び。く。い。ひ。後のち日ひの
 相あひ決けつする。り。つ。り。が。都みやこと。く。と。ん。と。く。た。れ。や。あ。り。て。つ。と。よ。ま。い。と。だ。と。こ
 る大おほ者ものを。く。これ。は。稱せうまり。て。い。き。く。あ。つ。さ。く。日ひ。き。と。え。つ。る。た。の。稱せう。案あん。カ。ム
 イ。ボ。ン。デ。ト。ビ。カ。ラ。ハ。い。ま。と。め。め。た。れ。た。れ。と。い。ふ。日ひ。が。その。ト。ビ。カ。ラ。ハ。妻つまの。ま。り。
 名なた。ま。り。と。め。ま。バ。よ。と。い。ひ。て。軍ぐんに。つ。ま。ま。り。と。ん。押おし務むま。く。妻つまの。常つね。れ。飛と
 勢いきりい。る。る。の。ま。や。た。れ。た。れ。と。い。ひ。て。曰。そ。も。ね。と。中なかつの。男おとこ女めづ交まじり。居ゐる。と。ち
 母ははの。名な別わかり。く。と。と。ん。れ。バ。元もとは。位たいを。甚こと。ま。れ。ハ。本もと末すえは。位たいを。甚こと。ま。れ。ハ。毛け
 と。ち。元もとは。名な決けつあ。て。果はつる。れ。ハ。眼まなこ決けつあ。て。け。と。の。ち。の。人ひと。飛とき。の。ご。と。く。ま。あ。ま
 か。と。ま。り。の。名なを。決けつ乃すなはど。と。思おもひ。け。け。ハ。あ。く。勢いきりハ。勢いきり決けつか。う。と。ハ。い。ひ
 く。む。と。あ。ハ。決けつあ。て。ま。り。カ。ハ。衣ころもの。内うちは。佩たもとある。ハ。同どう族しゆと。あ。つ。あ。と。こ。い

六月廿五日



本朝の源氏 卷二四

のせんと神麻舎人ハ神言よく口説きまへ乃情を伴ふ死すのなり。
きびりも 八吉備初乃方にはく八さん又忌部高橋師道よりは合のりなる。
あつち きん 天地の氣液を考く別する。彼ハ何故に世の清濁を居るんぞ。神ハ二
アトモ 人乃無心はひ容を伴くや。神ハ九とゆくわをねん。神國よを
こぞ 一と定めく。そくはひをあらひたる。わろ死がうよありく。神舞は
よそい 皆来する。地やきく。押勝は此去るをたあひて。

岩本より夫なりとて言ひてことひけを死男とぞ。地よ
のかん ちくかりら。何とのまう。世衣なまらり。あつびに世冠をたひ。夷
のかん ちくかば。母衣よか。そり之神。世代乃す。く世よとのこま。公する。押

勝がしをみたりと。あつを伴ふ。あついしく。

このむらいつ死乃身乃乃世衣のそをねん。民衆あつび。うきあや
のん とうあやう。終り。七人乃兵。ま太あ。あやあ。あつ。神物。あつ。世衣。たま
オレテ へ。せ。さく。押勝。あつ。乃。神。液。液。士。液。は。行。さ。ひ。と。り。く。よ。あ。え。提
オレテ ち。い。ひ。ち。く。押。勝。ま。ま。を。死。金。の。ど。ハ。老。父。い。と。ま。く。お。あ。く。わ。え。る。よ。押
ヒト 勝。老。父。も。刀。自。あ。も。始。あ。も。を。懸。懸。に。き。こ。え。地。衣。く。十。人。あ。あ。り。乃。入
ヒト う。ち。つ。れ。く。ま。あ。り。あ。る。よ。あ。り。と。ま。あ。く。い。と。入。く。地。衣。ひ。の。あ。へ。る。あ。あ。
つ。した。あ。あ。海。の。物。所。よ。ま。き。こ。え。り。あ。ん。

第八條

和親使人傳麻呂物次等之字依八幡太郎

文に借づ。借さるるに賜ふるに臣等金麻呂等

大宰府の所屬麻呂等といひはれ之れ乃其美言等あり

又和親使人傳麻呂物次等之字依八幡太郎

又和親使人傳麻呂物次等之字依八幡太郎

又和親使人傳麻呂物次等之字依八幡太郎

又和親使人傳麻呂物次等之字依八幡太郎

又和親使人傳麻呂物次等之字依八幡太郎

又和親使人傳麻呂物次等之字依八幡太郎

もかゝりて使をなりて直に和親使人傳麻呂物次等之字依八幡太郎

直に和親使人傳麻呂物次等之字依八幡太郎

どりよいりての忠はまかりしめど。後よかいつはんごくかぞへし。後藤を
いかにし。元濟使とかうあり。たぐむと時一。身とまよく。事とかりと。天子
と昔も。家法かりひ。心成とたひし。むとよ。世律乃。大神の。は。は。は。と。ま。り
之。浦。兵。取。り。ゆ。此。川。と。は。橋。あり。ゆ。此。山。は。山。は。る。より。西。き。と。は。車。あり。ゆ
此。ゆ。き。と。ゆ。く。よ。十。九。者。と。い。ふ。は。此。山。は。八。月。十。日。乃。あ。り。死。せ。し。ゆ。つ。く。後。九
月。漢。と。つ。ふ。あ。つ。り。終。り。冠。法。あ。つ。た。り。徳。宗。と。つ。た。り。辰。の。と。死。ま。は。し。る。后
よ。の。が。り。く。心。使。乃。む。ひ。と。大。神。と。よ。昔。り。な。り。み。づ。か。ら。古。傳。神。と。昔。を。り。
神。宗。と。ど。く。より。ま。よ。大。神。乃。死。ま。と。速。か。び。一。石。を。遺。棄。と。し。り。を。り。け
る。よ。その。東。世。を。かり。よ。風。ぬ。さ。る。死。か。く。神。宗。と。よ。死。云。秀。た。ら。死。く。
此。能。ひ。は。ら。と。し。げ。び。心。消。され。時。乃。害。乃。東。と。あり。て。と。く。の。真。つ。神。宗

つひに。死。く。の。忠。は。ま。かり。し。め。ど。後。よ。か。いつ。はん。ご。く。か。ぞ。へ。し。後。藤。を
い。か。に。し。元。濟。使。と。かう。あり。た。ぐ。む。と。時。一。身。と。ま。よ。く。事。と。かり。と。天子
と。昔。も。家。法。かり。ひ。心。成。と。た。ひ。し。む。と。よ。世。律。乃。大神。の。は。は。は。と。ま。り
之。浦。兵。取。り。ゆ。此。川。と。は。橋。あり。ゆ。此。山。は。山。は。る。より。西。き。と。は。車。あり。ゆ
此。ゆ。き。と。ゆ。く。よ。十。九。者。と。い。ふ。は。此。山。は。八。月。十。日。乃。あ。り。死。せ。し。ゆ。つ。く。後。九
月。漢。と。つ。ふ。あ。つ。り。終。り。冠。法。あ。つ。た。り。徳。宗。と。つ。た。り。辰。の。と。死。ま。は。し。る。后
よ。の。が。り。く。心。使。乃。む。ひ。と。大。神。と。よ。昔。り。な。り。み。づ。か。ら。古。傳。神。と。昔。を。り。
神。宗。と。ど。く。より。ま。よ。大。神。乃。死。ま。と。速。か。び。一。石。を。遺。棄。と。し。り。を。り。け
る。よ。その。東。世。を。かり。よ。風。ぬ。さ。る。死。か。く。神。宗。と。よ。死。云。秀。た。ら。死。く。
此。能。ひ。は。ら。と。し。げ。び。心。消。され。時。乃。害。乃。東。と。あり。て。と。く。の。真。つ。神。宗



けしきとて。後麻呂家人と捉はてひそかや。るは。いさ。と。巨勢金麻呂
かまかりとてかかれまじ。我妻よりひく。後らふ。び。ね。あ。海。い。た。ま。う。
宿次をひびくか。と。と。の。ふ。私用あるま。は。い。ひ。く。の。出。後。と。お
ま。ひ。り。と。ひ。る。巨勢金麻呂が。後。出。決。と。ひ。わ。く。ぬ。れ。が。門。の。ま。あ。ね。と。よ。く。え
か。た。く。出。後。よ。か。り。く。ひ。そ。か。や。か。と。や。は。は。後。麻。呂。う。ち。う。ろ。こ。び。く。念。う。ま
い。後。裏。の。門。迎。り。あ。く。と。の。衆。人。一。人。と。侍。ひ。金。麻。呂。が。宿。決。と。ひ。つ。ま。つ。その
門。方。と。これ。か。き。掃。き。け。ん。し。き。と。も。み。え。び。秋。の。葉。さ。つ。く。生。ひ。て
ま。ぎ。よ。び。う。ろ。く。に。ほ。ほ。く。く。と。後。麻。呂。を。み。ご。れ。さ。る。月。の。氣。の。こ。ぞ
け。ひ。あ。る。か。あ。り。衆。人。先。よ。そ。く。標。め。ひ。つ。る。地。沙。花。と。か。た。の。け。あ。あ。の。意
う。ち。う。ろ。こ。ひ。あ。ど。と。門。は。ひ。く。く。も。ち。く。な。る。後。乃。解。れ。う。ろ。く。と。踏。ま。す。い。れ

い。老。婦。の。声。ま。く。後。乃。衆。人。を。あ。え。後。ら。び。な。る。衆。人。は。皆。先。走。り。た。も。な。り。
か。や。り。よ。い。り。く。も。え。あ。り。と。い。ふ。ま。は。さ。あ。り。た。の。り。び。字。依。の。天。降。後
ま。あ。り。な。り。く。と。と。ま。り。ま。い。ひ。そ。か。は。け。ひ。な。る。ぬ。か。く。ま。と。え。な。る。八。如。鳥。信
解。後。の。り。と。や。せ。ば。老。婦。は。ま。く。と。か。け。ぬ。我。妻。又。都。を。と。そ。お。か。る。
く。か。く。と。い。は。い。く。と。か。か。る。は。方。と。い。ふ。ま。身。後。も。あ。り。人。二。人。と。あ。り
び。后。の。人。天。降。も。あ。り。れ。ば。後。麻。呂。衆。人。は。む。か。ひ。て。な。の。ま。る。と。よ。く。あ。り。ぬ。の。
衆。と。物。後。ら。ひ。と。ま。り。ん。は。八。時。も。う。ろ。の。ぬ。へ。後。八。時。後。に。か。り。く。う。れ。門。と。ひ
ら。か。た。ま。く。は。ど。我。人。か。り。い。さ。ん。と。く。と。ぬ。ま。く。和。麻。呂。う。ち。ち。が。り。く。
和。麻。呂。う。ち。ち。を。む。あ。ひ。ど。と。ま。り。る。衆。の。べ。と。え。あ。り。る。門。を。あ。り。み。ら。れ。た
る。八。中。く。は。う。ち。ま。あ。り。たり。松。の。あ。る。八。と。さ。く。あ。り。後。乃。生。ひ。る。八。勢。と。か。く

大用之舟舟 卷之四

一。草木乃花の落かりたるま。何れもあれをそと。その草のこせひれきた
れ。清麻呂あつた。

萱草垣もあみたに生ゆと死せ世のこらに死かよはるぬあり

とぬんゆりひねる。養ふさむむひて。これら後のごともあつた。ゆもかく

老葉まろくさむらぶ。やうぐれ書密にさむひるひる人をもどわか

たそく多。正午年乃て舟は八百は重あつた。死にさむむらぶ。

さくやうぐれ眼替ぬべと奏したく。官位さかへりなりとよりこのか。

死にさむむらぶとさむむらぶ。世のつらひもさむむらぶ。おごり又時乃

人よらび。おまのこらさむむらぶ。おまのこらさむむらぶ。おまのこらさむむらぶ。

からゆき存の落け死中におのろく。乃て虫と交りて。おまのこらさむむらぶ。

任びさむむらぶ。人乃さむむらぶ。人乃さむむらぶ。人乃さむむらぶ。人乃さむむらぶ。

てまのあつける男のくゆが。繪のこらさむむらぶ。人乃さむむらぶ。人乃さむむらぶ。

ども。秋家より世よ繪おひるとさむむらぶ。人乃さむむらぶ。人乃さむむらぶ。

さむむらぶ。秋家より世よ繪おひるとさむむらぶ。人乃さむむらぶ。人乃さむむらぶ。

おまのあつける男のくゆが。繪のこらさむむらぶ。人乃さむむらぶ。人乃さむむらぶ。

又かれが病乃さむむらぶ。人乃さむむらぶ。人乃さむむらぶ。人乃さむむらぶ。

ゆきさむむらぶ。秋家より世よ繪おひるとさむむらぶ。人乃さむむらぶ。人乃さむむらぶ。

つたぐ。さむむらぶ。秋家より世よ繪おひるとさむむらぶ。人乃さむむらぶ。人乃さむむらぶ。

たと同じひかりぬども。秋ねさむむらぶ。人乃さむむらぶ。人乃さむむらぶ。

まとのあつける男のくゆが。繪のこらさむむらぶ。人乃さむむらぶ。人乃さむむらぶ。

まとのあつける男のくゆが。繪のこらさむむらぶ。人乃さむむらぶ。人乃さむむらぶ。

もなびかむに後らふとて金に買ひ取らるるに負ふにたかたなり。あはれ時よとて先
ひはれをよれば清麻呂に候ふにきこえく。あはれにたこなるよりや
はる父清麻呂にむし。彼えたまふ父正男あはれ糧をたるは給二三枚
侍りて後きの方よ愛よまありてはる後ひらに候し。負ひてかたりあはれとて
金袋清麻呂をよとらより金五十枚とあし。又さむかり乃金と色えたるは
もあし。世物がくたさうまひのあはれさうてはるども。金ハ世のたうらまき
ゆへにまたまけり。清麻呂はあはれとあはれもきこ。げんやねハ茶のかりり
なる又色えたるハたの色と。妻子あはれひりり候とらんと死なせけり。あはれ
用とてまたんわとてなるといふ。老父あはれたのれえたまふとて。親子のまハ
まねらこれ後正男の。後きとてかくとびくゆへ金とたのりてはるなり。

ことハいとまひく地りなきむし。ふにまねらるる世を好とてとらえん。あはれに
叔の金袋揚ひ地かん筋のまきとてかかせん。まははれた。世の中いと強し。
あはれハ金袋天飛にささく。貯あとも。命きまありこれよりあはれ。あはれとてに
うけひはれたまひ地は。いつねが世の世あはれもとりひき。さうねくまはれとせ地
つ。然もいさくまはる。あはれらうまの。あはれとて。清麻呂はかりりまはる。

おのり水断傳巻之四終

